

学校評価

1 めざす学校像

- 躰教育に力を注ぎ、道徳の涵養に努力し「強く、正しく、優しい」人間を育成する。
- 生徒個々の個性、適正を十分に考慮指導し、希望する「目標」に到達できるよう努める。
- 国際社会を始め、あらゆる社会において活躍できる「ボランティア精神」の育成に努める。

2 中期目的

1学習指導

予習復習を怠らず、自ら種々の研究材料を選び、自発的に学習する力をつける。
生徒個々の学習状況に応じた指導体制の構築。

2生活指導

基本的な生活習慣の確立。
校舎内外の整理整頓、環境の浄化。
社会的ルール、交通規範の遵守。

3進路指導

安易な進路選択を避け、自らの目標を高めに設定した上で、それに向けて最後まで努力することができる人間の育成。

4生徒会・JRC活動

各クラブへの参加を通じての自己研鑽。
文化祭・体育祭などの各行事を通じての集団作り及び集団の中での自己確立。
JRC活動を通じた、ボランティア精神の育成。

学校評価アンケート

<教職員による自己評価>

分類	評価の観点	評価項目	設問	評価 A(%)	評価 B(%)	評価 C(%)	評価 D(%)
学校運営	私学の独自性	1. 教育方針	教育方針が生徒・保護者に理解されている。	28%	56%	16%	0%
		2. 愛校心について	在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。	19%	59%	19%	3%
		3. 集団行動について (体育実技)	生徒集団の規律維持に役にたっている。	53%	41%	6%	0%
	教育課程	4. 学習指導要領の 対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っている。	53%	38%	9%	0%
		5. 教育計画について	年間を通じた教育計画を各教科別に立て、計画に基づき実施している。	34%	47%	19%	0%
		6. 新教育課程	新教育課程は生徒の実態にあっている。	25%	59%	16%	0%
	教科指導	7. 指導内容	各教科は指導内容の工夫・改善に努めている。	34%	56%	9%	0%
		8. シラバスの作成	生徒が年間の授業内容・進度等を良く理解できるように、綿密なシラバスを自ら作成している。	31%	47%	19%	3%
		9. 指導方法	教科内の意志疎通が十分である。	25%	44%	31%	0%
		10. 授業内容	生徒が授業内容に満足するよう、自分自身は十分な準備をした上で授業に臨んでいる。	50%	47%	3%	0%
		11. 授業開始	授業はチャイムと同時にスタートしている。	66%	28%	6%	0%
		12. 発問	適切な発問をすることで、生徒の集中力が持続できるよう自分自身心がけている。	44%	50%	6%	0%
		13. 板書	適切な発問をすることで、自分自身わかりやすい授業を心がけている。	53%	44%	3%	0%

分類	評価の観点	評価項目	設問	評価 A(%)	評価 B(%)	評価 C(%)	評価 D(%)
学校運営	教科指導	14. 定期的な課題	授業内容の定着を図るために、自分自身生徒に課題を定期的に課している。	41%	53%	0%	6%
		15. 生徒の満足度	自分自身の授業を受けることにより、生徒は満足している。	28%	72%	0%	0%
		16. 学力向上	自分自身の授業を受けることにより、生徒は学習に対する意欲をかき立てられ、学力を伸ばしている。	25%	63%	13%	0%
		17. 成績評価	成績の評価基準・方法は教科方針に沿って適切に実施している。	53%	41%	6%	0%
		18. 家庭学習について	各教員は、家庭学習の習慣を積極的に生徒に身につけさせている。	22%	63%	9%	6%
	教職員連携	19. 校務分掌における教員の連携状況	分掌内で相互理解がなされ、信頼関係に基づき教育活動が行われている。	31%	34%	28%	6%
		20. 学年団における教員の連携状況	学年内で相互理解がなされ、信頼関係に基づき教育活動が行われている。	25%	47%	28%	0%
教育内容	情報教育	21. 情報モラル指導	情報発信に伴う責任など情報のモラル面の教育を十分取り組んでいる。	22%	38%	34%	6%
	人権教育	22. 退学生徒について	退学生徒の防止について各教員は積極的に取り組んでいる。	34%	56%	6%	3%
		23. 家庭訪問	退学生徒の防止のため、自分自身家庭訪問を積極的に実施している。	50%	25%	22%	3%
	環境教育	24. 環境問題意識向上	ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。	19%	50%	25%	6%
		25. 実践的態度の育成	生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。	28%	63%	9%	0%
	生徒会活動	26. 生徒会活動支援状況	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう、学校全体が支援している。	25%	50%	22%	3%
	その他	27. 部活動	自分自身は部活動の顧問活動を積極的に取り組んでいる。	34%	50%	13%	0%
		28. ボランティア	ボランティア活動は活発である。	16%	22%	50%	13%
		29. 学校行事	体育祭、文化祭などの学校行事は活発である。	19%	59%	22%	0%
		30. 国際理解	修学旅行を通じて他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	28%	47%	25%	0%
		31. 公開授業	公開授業は自分自身積極的に取り組んでいる。	25%	53%	16%	6%
生徒指導・支援	生徒指導	32. 生徒指導の一貫性	生徒指導は共通の方針に基づき、各教員は校則やきまりをきちんと生徒に守らせている。	34%	44%	22%	0%
		33. 礼儀・あいさつについて	生徒の指導体制に組織的に対応する集団指導の体制がある。	44%	31%	22%	3%
		34. 家庭との連携状況	生徒指導において、家庭との連携ができています。	28%	66%	6%	0%
	生徒支援	35. 自習室の設置について	自習室は生徒の学習支援の場として機能している。	38%	38%	22%	3%
		36. 進路指導について	受験に際し、生徒の学力に応じた分析等の支援体制がある。	22%	47%	25%	6%

自己評価アンケート結果

私学の独自性 教育課程の観点は、おおむね高評価である。
 特に3、集団行動・4、学習指導要領対応については53%のA評価が出ている。
 教科指導の観点は、9、教科内の意思疎通に課題が見えるものの授業内容など総じて良い評価となっている。
 授業開始・発問・板書など高評価ではあるが、教員の自覚をさらに促していきたい。
 教職員連携の観点では、分掌・学年での連携に課題が見られる。
 各分掌、学年・コースなどさらに有機的に機能するよう連携を図れる取り組みをおこないたい。
 教育内容の観点から28、ボランティアに課題が見受けられる。教育方針でもあるボランティア精神の育成
 について、次年度さらに充実させたい。
 生徒指導・支援の観点から 礼儀・挨拶が高評価となっている。
 定着してきたものと思われる。
 この点については、安心することなくさらに生徒指導の拡充を図りたい。
 課題となる点については、今後とも改善、意識啓発等努力していく。

3 本年度の取組内容

中期目標	今年度の重点目標	具体的な計画	評価指標	自己評価
学習指導	成績不振生徒対策	・学期ごと欠点者に対して講習の実施。	5教科実施。 欠点科目克服をめざさせる。	欠点科目をもつ生徒への意識改革は、徐々にではあるが進んできたように思われる。
	自習室の活用	・低学年からの自習室の利用促進。	昨年よりの増員。	月平均僅かではあるが、利用人数の増加がみられる。
	講習の充実	・授業終了後の7・8限を活用し、課外特別講座実施。	2・3年特進コース実施。 3年普通コース実施。	2・3年特進コース全員参加で実施。普通コースについては、大学進学希望者対象に実施。
	長期休暇中講習	・夏期、冬期、春期講習の実施。	全学年での実施。	全学年で実施。 3年生については進路目標に向け実力養成に努めた。 1・2年生については、基礎力充実さらに特進コースでは応用力強化に努めた。
	勉強合宿	・夏期勉強合宿実施。 ・冬期勉強合宿実施。	2年特進コース実施。 2年普通コース実施。	2年特進コース全員を対象とし、夏期講習の仕上げとして成果を上げた。 2年普通コース進学希望者を対象に、次年度に繋がる意識付けができたように思われる。
	ベル着の徹底	・ベル着50分授業の徹底。	ベル着徹底。	ベル着については徹底できてきたように思われる。 50分授業徹底も教員各自の意識改革により徹底されてきた。
生活指導	挨拶の励行 規則、マナーの再確認	・学年、コース集会実施。	集会を月1回程度実施。	学年・コース集会が機能してきたように思われる。 挨拶については意識的にできるようになってきた。
	社会的規範遵守	・講演会実施。	外部よりの講演会実施。	大阪府警より薬物問題についての講演実施。
	交通ルール遵守	・登下校時の周辺道路等見守り。	学校周辺道路立ち番実施。	原則授業日は見守り実施。 地域のボランティアの方々とも連携でき、交通ルールの遵守、挨拶励行など一定の評価ができる。
生徒会 JRC活動	新入生の学校活動へのスムーズな導入	・新入生校内オリエンテーション実施。 ・宿泊オリエンテーション参加。	生徒会・JRC役員らの自主性を重んじる。	生徒会・JRC役員の自主的な取り組みの中多くの新入生の緊張が緩和され、スムーズに学校生活のスタートを切ることができた。
	各行事の遂行	・文化祭としての取り組み。 ・体育祭としての取り組み。	文化的な取り組みの喚起 生徒の自主性を重んじる。 生徒全員の充実した参加。	概ね、生徒の積極的な取り組みは見られた。大きな事故等もなく成功裏に終了することができたが、やや文化的とは思えない取り組みも存在した。 生徒全体が積極的に取り組めた。特に普段教室内では見受けられないようなパフォーマンスを発揮する生徒も多く見受けられた。また3年生男子・女子によるマスゲームはそれぞれが本校の伝統を引き継ぎ、1・2年生・教員・保護者に感動を与えた。
	ボランティア活動の啓発	・義援金の募金活動。	生徒自身の自主性を促す。	生徒の自主的な取り組みが大きく見られた。特に、熊本県の震災に対する義援活動では、多くの義援金を現地へ送ることができた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・JRCTトレーニングセンターへの参加。 ・献血ボランティア等への参加。 	生徒自身の自主性を促す。	赤十字の理念のもと、多くの赤十字に関する知識を学び、自己の生活内及び本校にその知識を持ち帰ることができた。今後の活動にも大きく期待が持てる。
進路指導	進路意識の育成	・進路意識を向上させる。	進路希望調査の実施。 (4月と9月に実施)	3学年とも、大学進学を希望する生徒が一番多かった。学年別では、1年生の大学希望者は4月の時点で56.4%であったが9月では52.9%と微減。そのかわりに未定の割合がやや増加した。 2年生の大学希望者は4月73.6%、9月74.5%、とやや増加。 3年生の大学進学希望者は4月71.1%、9月80.1%、と増加した。
	キャリア教育の充実	・職業分野別説明会を実施。	1年生を対象に実施。 生徒は複数講座から職業講座を2つ選択し、自分が選択した職業を学んだ。 職業観の育成を狙いとした。	生徒たちは自分が選択した講座の職業についてよく理解し、学んでいた。 2年生に向けての文理選択を含め今後の進路選択に役立てていた。
		・学問分野別説明会を実施。	2年生を対象に実施。 生徒は複数講座から学問講座を2つ選択し、自分が選択した学問を学んだ。 学部・学科について知ることを狙いとした。	生徒たちは比較的関心を持って講座を受講していた。自分が今まで関心がなかった学部・学科にも興味が出てきた、という生徒も少なくなかった。進路について幅広く考えることができたようである。
	進路指導部による行事の充実	・進路説明会の実施。	3年生の生徒・保護者を対象に二部制で実施。 第一部は進路全般。 第二部は4分野からの選択制。 進路意識を高めることを狙いとした。	第一部での進路全般についての説明により、大まかな流れをつかむことができたように思われる。 また、第二部では「大学・短大」「看護医療」「専門学校」「就職」の各分野において理解が深まり、進路選択に役立てていた。
		・企業人講演の実施。	1年生を対象に実施。 職業観の育成を狙いとした。	藤原電子工業の代表取締役の方に講演をしていただいた。少し1年生には難しいかとも思われたが、一人ひとり真剣に耳を傾けていた。
		・進路講演の実施。	2年生を対象に実施。 進路意識を高め、進路の実現に向けて今何をすべきかを考えさせることを狙いとした。	マイナビから講師を招いて「進学とその先を考えよう」をテーマに講演をしていただいた。 生徒たちには好評で、進路を考えさせるいいきっかけとなった。
		・大学入試対策講演の実施。	3年生を対象に実施。 受験意識を高めることを狙いとした。	近畿大学より講師をお招きし、学校に関する説明と、受験についての講義をしていただいた。 講演後、生徒たちの進路意識が高まった。受験生としての意識が芽生え、いい状態で夏期講習に向かうことができた。
	進路指導体制の強化	・進学実績を向上させる。	進路決定率の向上。 難関大学への合格実績。	本年度の進学決定率は94.6% 今後も担任教員と連携しながら、面談や進路LHRなどを通じて決定率100%を目指していきたい。 関関同立27名、産近甲龍139名、と多くの合格を出すことができた。

学校評価委員会からの意見

学校運営について
教育方針のもと、しっかり取り組まれていると評価できる。また体育実技・基礎体育が、規律維持に大いに貢献していると思われる。

教科指導においても充分指導していただいているが、さらに授業内容の精査、生徒満足度の向上を目指していただきたい。

教育内容について
携帯やスマートフォン、インターネットなど使い方の間違いで昨今大きな社会問題ともなっています。情報モラル教育につきましてさらに充実させていただきたい。
環境問題への意識、ボランティア活動の充実は、教科教育とは違い難しいところがあるとは思いますが、教育方針の一つの柱でもあることから生徒への働きかけ、動機付けなどさらに拡充していただきたい。
国際理解について海外修学旅行は大いに貢献していると思われるが、旅行内容、方面などさらに研究していただきたい。

生徒指導・支援
礼儀・挨拶について、個人個別の問題かもしれないが、まだ不十分な生徒もいると思われる、さらに全校で取り組んでいただきたい。